

と露に濡れて居る、其先きにはあずまやがありて「テニス」のコートが出来て居る、庭の右の方には竹の一叢が丈高く延びて居り其からは桑の畑である、街道から庭の左側に一直線に一三〇メートル本館の廣迄道路を開けて自動車が入る、道路から左の方は密柑畑である。

道路と「テニスコート」の間は土人のコーヒー園が若干あり、雑林もある、林の茂みの上からは椰子の木などが見える、街道を朝早く自動車の音も聞える、其先き一面の鬱蒼たる樹木で、遠く「カバ山」の麓迄続く否カバ山の頂下迄一面に樹木で被はれて居る。

カバ山は翠緑を以て被はれた山で孤立した山ではあるが、去り連圓錐形に兀として天空に聳えたと云ふではない、と云ふて布圍着で寝たる姿としては少し堅過ぎる、兎角穏かな平和な感じを與へる山である、朝日はかば山と分水嶺の間の邊より差し上る。

朝の冷たき爽かな空気を吸ふて「チヌロツプ」の沃野に眼を放てば、熱帯の強き光線、爽かな空氣、豊沃なる土壌、饒なる雨露の限りなき天恵に生々と伸び行く草木の生氣に打たれ連日の疲れは消散し全身に潑刺たる元氣はよみがへる。

洗面所の水は綺麗でつめたい、側の井戸をのぞけば數尺の下に水は湧いて居る、ポンプの柄を少し動かせば清冽な水は忽ちセメントの水槽に充ちる。

庭には鶏が食をあさりて居り犬は猫と戯れて居る、靜かな平和な光景である。

## 伯林より

原 田 親 雄

此の記はドイツの伯林に御滞在中の先生が校長先生に宛て、書かれた手紙の一節です。

### ライン地方の旅

九月九日夜、汽車にて獨逸人の團體旅行に参加してライン地方の旅行に出掛けました。日本人は東京高工の竹内氏、東京工科大学の芳井氏と文部省の宮島氏夫妻と私の五人でありました。先づケルンに参り一行と觀光を共にしたる後暇を作り印刷博覽會を見且つ郊外にタクシーをさせてライボルト理科學器械製作工場を見學致しました。十一日にはケイユヒスウインターへ参りデーベンゲビルグに登りたる後私共のみボンまで参り其大學を見學致して歸りました。其夜は土地の鐵道官吏及ホテル組合の歡迎會をうけライニツシエアーベンドの催あり相當茶目を發揮致しました。

十二日は船にてラインをのぼりゴブレンツまで参りました。中途よりハンノーバー附近のキリスト教女子大學の卒業修學旅行の

一行乗り込みましたが日本人が珍らしきものと見えて直ちに懸念になり三十數名の生徒が私を取りまきて合唱などして盛に好意を表して呉れました。一行の獨逸人にはフアイナーマンとほめられました。一行の日本人には評判を悪く致しましたが不思議に思ひました。初め一行をこれ等の生徒や先生に紹介して一團となつて居りましたが何時の間に日本人は一隅に退きて私一人取り殘されたやうな次第です。私共の下船に際しては一同が袂別歌など合唱し大に好意を表して呉れました。其結果來年一月の同窓會に參りて日本に關する講演をせよと要求せられたので見られる通りのあはれな獨逸語講演など思ひもよらずと固辭致しましたが先生も生徒も仲々聞き入れませんでしたから止むを得ずば原稿を認め朗讀致しますと申しました處、それでもよいから是非との事でありましたから今更うかと約束致したことを悔ひて居ります。コブレンツに下船の上葡萄酒を見。私共は佛兵守備の要塞を見物致しました。茲には婦人の士官が居るとの由珍らしきことに聞きましたが拜顔の榮を得ず歸りました。佛兵の要塞故獨逸語にて物を頼むは不利との考へから手まねにてすべての用を足しました。以來外國語に就て悟る處ありし様にな覺えました。近頃入獨の人々より往々獨逸語を如何にして學ぶべきかの相談を受けましたから讀書作文の稽古は斯々と私の知れる範圍にて申し上げ、併し獨逸語の稽古が會話や用を足す目的である場合は外國語に依頼せず完全

に嚆者になりたる稽古にて身振り心持にて意志を通ずる様につとめ、其の熱心のあまり自然に一つでも二つでも單語が口よりとび出るので助くると云ふ要領を覺えることが第一にて専門家は別とし私共素人は完全に語學をすてこれに依頼しない覺悟をするを始め用が足り、しからざる場合は用は便せず。これ外國語の極意なりと答へて居ります。其後田中館先生の歡迎會を理科の連中にて催した時、先生も略同様の極意をさづけられました。先生は大家の内にては語學の御上手の方とは見えませんが學會や會議の席上では英、獨、佛語何れかにても最も成功される方として不思議とされて居らるゝ方です。この人達の極意と略同様なことを承りました上は意を安んじて問はるゝ方にはこれを申すことに致しました。入獨當時の知人の申すには昨年の夏頃は極めて正確な獨逸語を話したりしがこの頃はめちやゝになりたりと笑ふて居りましたがめちやゝな獨逸語をやる様になりしより餘り疲勞も見えず用事もいくらか足りる様になりしかと考へて居ります。

十三日朝コブレンツ渡船にてヤイグトシユロスに行き山と申すよりは丘を越えアイスマンスハウゼンに參りこれより船にてマインツまで參りました。今日も昨日の生徒が中途にて乗船、樂器等取り出し日本人を盛んにもてなして呉れました。而して途中にて下船再び岸に整列して私共の船を送つて呉れました。夜は公會堂にて再びライニツシアーパーバンドと大さわぎ致しました。午

前自由行動でありましたから竹内氏と二人はフランクフルトまで急ぎ往復致し午後是一同とウィースバーデンの温泉へ参り汽車にて伯林に向ひました。機車の際土地の樂隊が奏樂致して居りましたので一同汽車を下りプラットホームにてタンツを初めました。私も六十近い婆さんにつかまりタンツをやらふと催がされましたがタンツはまだ習ひ居らずと平身低頭あやまりました。十五日朝伯林に到着致しました。

### 丁抹、スカンデナビヤの旅行

九月二十九日朝前記竹内時男氏と丁抹、スカンデナビヤへ行きました。觀光には少し季節が遅れましたが大學などの參觀は今が時季と存じ厚いシャツなど着込んで参りました。夕方既にコーペンハーゲンに着きました。

翌三十日は町の見物を致しました。獨逸の先生にて昨年伯林のインスチチュートにて同じ級にて學びしウオルフ嬢が茲に居り、この家にて夕食に招かれ家族全体の歡迎を受けました。數代つゞく牧師の家にて母も亦牧師の家に生れし人の由、まことに敬虔な家庭はゆかしく感ぜられました。

十月一日は月曜故茲の大學を參觀致しました。茲の教授は先年先生が御興味を持たれし例の原子構造の論者にてノーベル賞を得たるニールスボー先生です。幸ひ面會の榮を得しのみならず午

後二時にはコロキウムありとの事、傍聴の許を乞ひました處が「勿論」と快諾され出席致しました。英、獨何れかにてやることになつて居るとの由、今日は英國人の研究の討議故英語にて差問へなきやと尋ねられましたからまさか獨逸語に願ひたとは申し兼ね厭つて居りました。聞く方は手眞似の極意も役に立たず閉口致しました。伯林にて茶などに招かれ英國人と同席し英國人の英語の味は承知致して居りましたから初めより覺悟致して居りましたので今更驚きも致しませんでした自分の主張ながらがつかり致しました。ポール氏のデスカッションは英語なりしもこの方は大抵判り、さすがに大家はちがふと今更敬服の外ありませんでした。夕食には昨日のウオルフ姉弟をホテルへ招き夜弟の案内にて大學の寄宿舎を見學致し汽車に乗りオスローへ向ひました。

十月二日十一時オスローに着。私のみ北方汽車十二時間のベルゲンへ行き新氣象學の創設者フエルクネス父子を尋ねる事に致し竹内氏と別れ、取り敢へず當地の氣象台へ行き台長ヘッセルベルグを尋ねました。この人の話により大フエルクネスは近頃茲の大學に居り小フエルクネスに引見の榮を得ました。一階下の室にグエガルドと云ふ名刺が見えました。極光が岡体雲索によるものなりとの新説を出し、その實驗も致して居りました人にて車中竹内氏とグエガルドの實驗案を見たきも居所が知れずと残念がつて居りましたから天文台へ参り竹内氏はきゝ出して必ず訪問すべきを

思ひ先きまはりし邪魔するも如何かと思ひ割愛致しベルゲン行きを見合せ歸に行きました。車中飛行將校と語りました。主張勞働者と大學生が國を危ふすると慨嘆致して居りました。

十月三日ストツクホルム着。直ちに汽車にてウプサラに参りました。當大學にはX線研究にてノーベル賞を得たるシーグハーンが居り、茲にも引見の榮を得ました。絹絲のX線検査もやりたいと申して居りました。ウプサラ大學の隣りは墓地でオーグストローム、アルレニウスの墓もありました。アルレニウスはイオン説の元祖としての外に私には特別感謝せねばならぬ義務がありました。之れは先年原子より宇宙への通俗講演の際天文に關する部は多く氏の著コスミツシエンフィデークによりしたためです。茲に墓前に先年の感謝を心中に述べました、賽驢計のセルシウスの墓は二里許りの所でしたから割愛し植物學のリンネの家を見又ドームを見物致しました。偶然ドームの中にリンネの墓のあることを發見致しました。養蠶の學校の一品として特別感謝せねばならぬ事と存じ學校を代表の氣持にて禮拜致しました。それよりストツクホルムに引き返しましたが二日間夜行をつゞけし故町を見る勇氣もなく直ちにベットに入りました。

十月四日ストツクホルムの町見物を致しました。茲には高等工業學校ありベネデツクスと云ふ名の知られたる物理學者が居りましたから實驗室を見せて貰ひました。氏はスペイン旅行中との事

でした。王宮の後方一キロメートル位の所に十四世紀時代よりとか申すケラーあり、そこに夕食をとりました。電燈は懸々暗くし卓上には蠟燭を立て給仕は古代スイデンの服裝でした。スイデン獨特の御馳走をと命じた處幾種ともなき珍妙な料理を持ち來り日本の鹽海老まで出ました。満腹まで食べた處以上はフオールシニバイゼンにてこれより懸々本論なるが肉にするか魚にするかには驚きました。勇を鼓して魚を命じ恐るゝ價を問へば二クロインと云ふにも又驚きました。日本金にて一圓二十錢位です。獨逸人の二日分の榮養は充分にありしことと存じます。コーペンハーゲンのピフテキにてすつかり羨ましく感じたのに茲は又その以上と存じます。この日ストツクホルムの競技場を見物致し先年オリンピック競技のありし所故定めし立派なものと存ぜしに立派は立派ですが規模は伯林のスタージオムの比ではありません。夜九時の汽車に乗り翌五日午後七時伯林に歸着致しました。

## 羅馬より

和田仙太郎

此の記はイタリーのローマ御滞中の先が校長先生に宛てゝ書かれた手紙の抜抄です、羅馬は小生などにとつては何といつても一番興味深い所です。